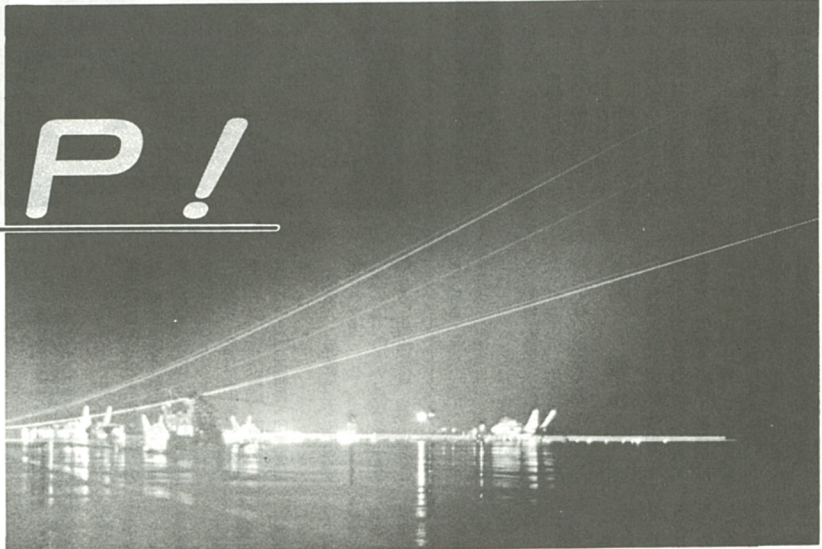


世帯と人口
 (平成5年2月1日)
 世帯 37,646 (+34)
 人口 110,026人(+86)
 男 56,847人 女 53,179人

広報 えびな

編集・発行
 海老名市役所広報広聴課
 〒243-04
 神奈川県海老名市勝瀬175
 ☎ (0462) 31・2111

もうやめて NLP!



空母インディペンデンスの艦載機による硫黄島でのNLP (神奈川新聞社提供)

硫黄島へ全面移転要請

1日も早く静かな夜を

厚木基地の夜間連続離着陸訓練(NLP)の航空機騒音は、がまんの限度を超え私たちの生活に大きな不安と被害を与えています。市では、機会あるごとに国や米軍に対し、航空機騒音の改善を求めてきました。しかし、今年に入ってから二回のNLPを行う旨の通告があり、通告日数は延べ十九日間に及びました。通告直後には、県や基地周辺市とともに訓練の中止要請を行っていますが、こうした再三の要請にもかかわらず、昼夜を問わない訓練が実施されています。今回は、NLPをめぐる近況と市の対応をお知らせします。

硫黄島で訓練始まる

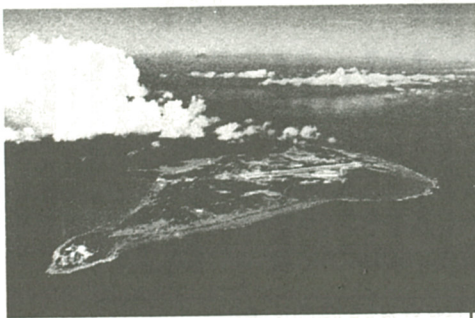
厚木基地周辺の航空機騒音の軽減のため、平成元年度から硫黄島に訓練施設の建設が進められています。市では訓練施設の完成前でも、出来るかぎり硫黄島でNLP訓練を実施するよう求めてきました。こうした要請の結果、硫黄島でも今年三月末の訓練施設の全面完成を前にして、九日間ですが、本格的な総合訓練が行われました。

国はその訓練施設のため、約百六十七億円の費用をかけ、滑走路整備や宿舍、厚生関連施設などを建設しています。

市では、訓練施設完成後は硫黄島でNLPを全面的に行うよう、米軍をはじめ外務省や防衛施設庁などに対して強く要請するとともに、市民の声を伝えるなど、広範囲にわたる活動を展開しています。

切実な騒音被害

米軍の空母艦載機の騒音実態

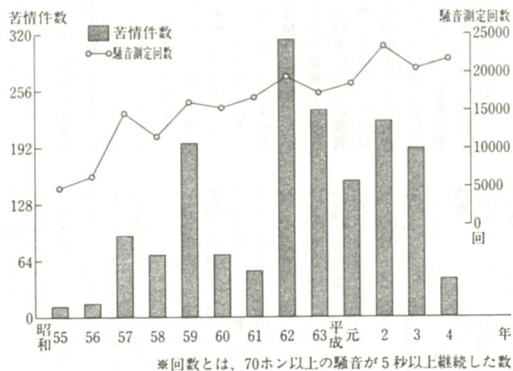


3月末訓練施設完成

硫黄島訓練施設の概要は次のとおりです。
 ▶滑走路(長さ2,650m、幅60m)、模擬甲板灯火施設、光学着陸誘導施設、着陸拘束装置、燃料タンク、給水施設、食堂、宿舍(約400人収容)、厚生施設、運動施設(プールなど)、駐機場(20数機の駐機が可能)、倉庫など

年別騒音測定回数と苦情件数

(騒音測定回数は、柏ヶ谷小で測定したもの)



を把握するため、市では市内五カ所に自動記録騒音計を設置し、二十四時間体制で騒音測定を行っています。去年は、二月から四月までNLPが行われた後、空母インディペンデンスが横須賀を出入りしていたため一時、訓練は行われませんでした。しかし十月以来、基地に再び飛来して以来、基地周辺の騒音量は増え、年間の騒音測定回数は二万二千三百一回、NLP実施日数は二十九日間に及んでいます。市では、NLPを硫黄島に全面移転することで、厚木基地周辺の騒音状況を改善し、安全で快適な市民生活が送られるよう、より一層強力に関係機関へ働きかけていきますので、市民のみならずご理解と協力をお願いします。



新緑と紅葉が美しい小原温泉

石名
白海老

市民相互の交流



児童たちが野球で交流を深めた(白石市で撮影)

白石市からは、八団体百五十人の方が海老名市を訪れ、様々な親善交流が行われました。主な交流は以下のとおりです。

仲良く引き分け
少年野球で相互に交流
八月一日、市内のコカ・コーラグラウンドで、白石市の少年野球チームから選抜された児童二十人と、海老名市少年野球選抜チーム二十人とが初の交流試合が行われました。

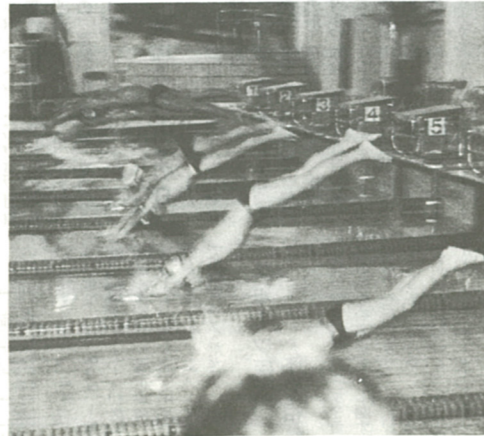
また、三回目の交流の日には、海老名市選抜チームのメンバー二名に横濱見物などを楽しみ、グラウンド以外でも交流を深めました。

十月十日には、海老名市の選抜メンバー二十人が白石市を訪れ、二回目の交流試合を行いました。試合は、八月と同様に引き分けとなり、試合後にはスパ

自然と歴史が調和した「まち」

白石市は、宮城県の南部に位置し、伊達藩白石城の城下町として発展した都市です。面積は二百八十五・九四平方キロ、人口は約四万二千人です。

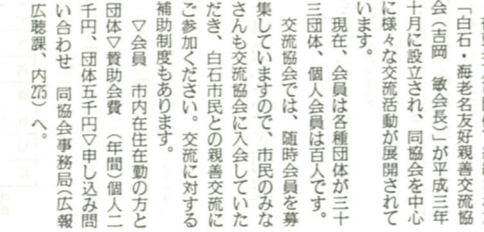
交通網に恵まれ、仙台空港まで五十分、東北本線の白石駅、東北新幹線の白石駅、東北自動車道の白根インターなどがあり、宮城県南部の交通の要衝となっています。



親善水泳大会には市内から26人が参加

また、白石市には次のような観光資源があり、年間約五十万人の観光客が訪れます。

- ▽白石城跡 慶長七年(一六〇二年)、伊達政宗が伊達小十郎重頼が拝領した白石城の跡です。現在、この白石城の復元工事が行われており、平成六年度中には、三階櫓(天守閣)と大手門が完成し、明治七年の歴史を再現します。そのほか、白石城



白石和紙の製作

- ▽小原温泉 白石川上流の碧玉渓谷沿いにあり、近くには天然記念物の木岩もみがあります。
- ▽弥治郎(けし) 大きな頭に幅広いのろくろ線が特徴で、毎年五月には「全日本(けし)コンクール」が開かれます。
- ▽白石城跡 慶長七年(一六〇二年)、伊達政宗が伊達小十郎重頼が拝領した白石城の跡です。現在、この白石城の復元工事が行われており、平成六年度中には、三階櫓(天守閣)と大手門が完成し、明治七年の歴史を再現します。そのほか、白石城

まつりに、白石市観光協会から物産展の参加がありました。同コーナーでは、白石木地工製品や温湯(うづめい)など名産品の販売、また、伝統工芸(けし)の製作体験や、子供たちが真剣なまなざしで無地のけしに絵付けをするコーナーに人が集まり、まつりの雰囲気盛り上げました。

水泳で交流の輪
友好4市親善大会
十一月には白石市で、少年少女の水泳大会が行われました。この大会は、白石市の市民レ

交流活動に参加を
白石市との市民レベルの活発な交流を推進するために、市民・在勤者及び団体が組織された「白石・海老名友好親善交流協会(吉岡 敬会長)」が平成三年十月に設立され、同協会を中心に様々な交流活動が展開されています。

深まる

平成三年十一月一日海老名市は市制施行二十周年を機に、宮城県白石(しろい)市と友好都市の提携を結び、一年四カ月が経過しました。この間、両市の民間団体や市民相互の間で活発な交流が行われており、その交流の様子をお知らせします。

提携後の市民相互の交流は、海老名市から十八団体、四百四十人の方が白石市を訪れ、白



りの巧みな技を実演

今年十一月一日海老名市は市制施行二十周年を機に、宮城県白石(しろい)市と友好都市の提携を結び、一年四カ月が経過しました。この間、両市の民間団体や市民相互の間で活発な交流が行われており、その交流の様子をお知らせします。

友好都市白石に443人が訪問

提携後の市民相互の交流は、海老名市から十八団体、四百四十人の方が白石市を訪れ、白

提携後の市民相互の交流は、海老名市から十八団体、四百四十人の方が白石市を訪れ、白

提携後の市民相互の交流は、海老名市から十八団体、四百四十人の方が白石市を訪れ、白

提携後の市民相互の交流は、海老名市から十八団体、四百四十人の方が白石市を訪れ、白



開発指導要綱を改正 4月1日より実施

無秩序な市街化を防止して、良好な都市環境を確保するため、海老名市開発指導要綱が改正され、四月一日から施行されます。同要綱は、敷地五百平方メートル以上の宅地利用や高さ十メートル以上の中高層建築物に適用されるものです。現行の開発指導要綱は、昭和六十一年に改正されたもので、その後地価高騰を含めた社会構造が急速に変化したこと、近隣市町の要綱との均衡などを考慮しながら、見直しを進めてきました。今回の改正点のうち、主なものは次のとおりです。

100%以上を義務付け
中高層住宅を建築する場合、駐車場の設置割合が引き上げられます。現行では、計画戸数の五十%以上の自家用駐車場を確保しなければならず、今回の改正では、計画戸数の百%以上の自家用駐車場を確保することが義務付けられ、しかも、建物の敷地内に五十%以上

上の駐車場を確保しなければならなくなりました。例えば、総戸数五十戸の共同住宅を建築した場合、敷地内に二十五台以上の駐車場を設け、残りの台数は近隣に確保し、

全体の五十台以上の駐車場が必要となります。

緑を十分に
緑化基準を設置
今回、新たに緑化の基準が設置されます。これは、開発区域等の面積に応じて緑化を行わなければならない面積割合を定めたもので、次のように区分されています。

①五百平方メートル以上一平方メートル未満の場合、開発区域等の面積の五%。
②千平方メートル以上三平方メートル未満の場合、一〇%。
③三平方メートル以上十平方メートル未満の場合、一五%。
④十平方メートル以上一十平方メートル未満の場合、二〇%。
⑤一十平方メートル以上の場合は、二五%。

緑化の基準を新たに設置します

白石・海老名友好都市 一親善交流のあゆみ一

平成2年
7月 姉妹都市提携検討委員会設置

平成3年
10月 白石・海老名友好親善交流協会設立
11月 友好都市提携調印及び市制20周年記念式典に白石市長らが出席
11月 海老名市工業会研修
12月 海老名市長、交流会長らが視察訪問

平成4年
2月 交流協会が白石市を訪問
3月 海老名市納税庁審組合連合会役員研修

白石海老名友好都市盟約調印式

友好都市を提携(3年11月)

- 5月 海老名市さつき会研修
- 5月 「スパッシュランドしろい」落成式に出席
- 6月 海老名市地域婦人団体連絡協議会研修
- 6月 海老名市商工会青年部研修
- 6月 白石市自治会連合会来訪
- 6月 白石市青年会議所20周年記念式典に海老名市青年会議所が参加
- 7月 海老名市農業委員会研修
- 8月 白石市少年野球選抜チーム来訪
- 8月 第17回えびなふるとまつりに白石市観光協会が来訪し、物産展を開催
- 8月 海老名市青年会議所主催により、市内の児童を白石市内の国立野営場に派遣
- 8月 海老名市ソフトテニス協会交流試合に訪問
- 9月 海老名市陸上競技連盟、宮城蔵王高原マラソンに参加
- 9月 海老名市国民健康保険運営協議会研修
- 10月 海老名市少年野球選抜チーム白石市に遠征

海老名市が6位入賞

第47回郡市対抗駅伝競走大会

二月十四日、小田原市の県立西湘地区体育センターから相模湖湖沼まで九区間七十一・一キロメートルの「第四十七回郡市対抗駅伝競走大会」が行われ、海老名市チームは去年の七位から一つ順位を上げ初の六位入賞の好成績を収めました。当日は朝から快晴、風が少しあったものの、好走のコンディションに恵まれ、沿道には選手の手を見せたいと多数の人が集まりました。海老名市の選手もその声援にこたえようと実力を



力走する海老名市チーム(6区から7区へ)

気軽にご利用ください

県央地区体育センター

県央地区体育センターでは、広く県民のみなさんに同センターをご利用いただくために、四月から「自主トレーニング講習会」「県民スポーツの日」「スポーツ医事・体力相談」を次のとおり実施します。

自主トレーニング講習会

同センター内のトレーニング室の器具を自主的に利用するための講習会です。
▽日時 毎月第一・第三土曜日(ただし、1月の第一週を除く)午後一時から四時 同センター
▽対象 県民▽会場 同センター
▽申し込み 講習コーナー(午前9時～午後4時)指導コーナー(初級・午前10時～正午、中級・午後2時～4時)▽体育館開放します。

県民スポーツの日

▽日時 毎月第三日曜日(ただし、8月・11月は除く)午前九時～午後四時▽会場 同センター▽対象 県民▽会場 同センター
▽申し込み 講習コーナー(午前9時～午後4時)指導コーナー(初級・午前10時～正午、中級・午後2時～4時)▽体育館開放します。

卓球大会を開催

市卓球協会では、第四回海老名市オープン卓球大会を次のとおり開催します。
▽日時 四月十一日(日)午前九時から四時 同センター
▽申し込み 講習コーナー(午前9時～午後4時)指導コーナー(初級・午前10時～正午、中級・午後2時～4時)▽体育館開放します。

図書館から

春のおはなし会

春休みのひとときを図書館の「春のおはなし会」で過ごしませんか。
▽とき 3月26日(金)午後2時半～3時半▽ところ 図書館2階視聴覚室▽内容 セロ弾きのゴージャス(宮沢賢治作)▽対象 小学生以上一般成人50人▽申し込み 3月9日(火)から電話(☎31・5152)または直接会場へ。

漂泊の歌人「西行」展

古典文学講座「西行を考える」に関連して、「漂泊の歌人・西行」展を開催しています。
▽展示期間 4月6日(火)まで(毎週月曜日と3月20・31日は休館日)。時間は午前9時～午後4時50分▽展示場所 図書館2階展示コーナー▽展示内容 西行の代表歌と歌枕、西行物語絵巻、家集(影印本)など。

春の映画会

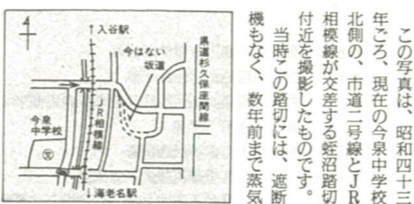
「春の映画会」を下表のとおり開催しますので、ぜひお出かけください。
▽会場 図書館2階視聴覚室▽申し込み 3月10日(水)から電話(☎31・5152)または直接図書館へ。申し込み受付時間は、午前9時から午後4時50分まで。

月日	時間	対象	プログラム
3月25日(木)	10:00-11:10	中学生以上(当日会場へ)	①黄金狂時代
	13:30-16:30		②マイフェアレディ
3月30日(火)	10:00-11:10	幼児向け(申し込みが必要)	それいけアンパンマン(キラキラ星の歌)
	13:30-14:40		
	15:00-16:10		

休館日のお知らせ

図書館では、図書の蔵書総点検のため、4月7日(水)から15日(木)までの9日間休館します。また、同期間、自動車庫も休館になります。
図書を借りている方で、返却日が4月6日以前になっている方は、必ず期間内に返却をお願いします。

この写真は、昭和四十三年ごろ、現在の今泉中学校北側の、市道二号線と丁相模線が交差する釜沼踏切付近を撮影したものです。当時この踏切には、遮断機もなく、数年前まで蒸気機関車が走っていました。また、踏切の先の公道(昭和40年完成)は、砂利道で道幅も狭く、車の交通量もわずかでした。この公道の完成する前には、現在の公道よりさらに右側に赤土の細い公道があり、農作業のため、よく牛車や田んぼへ通ったもので、特に雨の日には、滑り止めのため公道にわらをまいたり、牛が滑ってひきで公道を上ったものも、なつかしい思い出です。(上今泉の加藤光雄さんからのお話を伺いました)



写真が語る郷土の歴史

蒸気機関車が走っていた

踏切には遮断機もなく... このコーナーでは、市内に残る古い写真を紹介します。風景や風俗、人物などを撮った古い写真をお持ちの方は、市史編さん室(内291)へご連絡を。

現在は人家も増え車の往来も...

楽しく早朝ゴルフ入門



アドバイスをしながら練習する受講者たち(ゴルフガーデンで)

公民館だより

〒312-3231 海老名市中央公民館

歴史やマナーも学びました

ゴルフは、今年年齢、性別、職業を問わず、関心の高いスポーツであり、ゴルフ人口も著しい伸びを示すほど、身近なスポーツになりつつあります。そこで、平成四年度第三期青年教室は「初心者のためのゴルフ教室(入門編)」と題し、一月十七日より三月七日までの毎週日曜日、早朝七時半から二時三十分までの全八回で開催しております。この教室では、開催場所でもある小田原ゴルフガーデン所属のプロゴルファー大久保嘉之氏、インストラクター依田信義氏を講師に迎え、二十五人の受講者が基本的技術を修得することに併せて、意外と理解解されていまいし、解、マナーやルールなどにも親しみ学んでいます。

「レンズ」の世界に親しむカメラ教室

二月二十三日から行われているカラ教室では「写真を撮られる人、自分の様々な表情は撮られたいもの。話し合い、語りかけながら豊かな表情を撮りたい」というプロ・カメラマン酒井直氏を講師に迎え、受講者たちが「レンズの世界」に親しんでおります。受講者たちは、二十歳から六十七歳までの幅広い年齢層で、フィルムを自分で入れたことのないからセミプロ級の人まで、経験もいろいろ。また「山の写真を撮りたい」「花の色をきれいにしたい」「私は人を...」など受講者の対象もいろいろです。初回、最初に講師が一人ひとりの受講の動機や写真歴を丁寧

プレイガイド 来生たかおコンサート

▷とき 3月19日(金)午後6時半開演 ▷ところ 市文化会館(☎32・3231)▷入場料 A席3500円、B席3000円(全席指定)好評前売中。前売りで売り切れた場合、当日券はありません▷主催 海老名市・市文化会館事業協会

今月のポイント

「中国は、世界の産物の約六割以上を生産していますが、一人当たりの生産量を比べると、日本ははるかに上回っています。近代的な日本の養蚕技術を大いに学んで、生産効率は高めてほしい」

本国へ養蚕の近代技術を

養蚕の盛んな町で育った高さんは、子供のころから養蚕に親しみ、現在は兵庫県企業(きんぎょ) 県蚕業センターに勤務、養蚕農家の養蚕の生産技術の指導をしてい

シなどの病害虫駆除や蚕糸の消毒方法は、意欲的に取り組んだ。本国では、桑や繭の消費をほとんど手作業で行っている。日本で学んだ方法を、すぐに応用できるのばかりではありません。最初

の機械化から取り組んでいきたいと目を確かす。高さんは、宿務先の県国際研修センター(横濱市)から毎朝、電車で徒歩で通勤して言葉、電車の乗り換えなどに慣れず、体調を崩したこともありましたが、同センターのみなさんが親切にしてくれて充実した研修を送ることができました。本国に残してきた奥さんと六歳になる女の子には、脱時計とオルゴールを日本の土産として持ち帰るという高さんの心は、すでに在来地のある山々に、やがて山あいにいる養蚕農家の近代化が、高さんの普及活動を通して着実に進んでいくと信じています。

「中国は、世界の産物の約六割以上を生産していますが、一人当たりの生産量を比べると、日本ははるかに上回っています。近代的な日本の養蚕技術を大いに学んで、生産効率は高めてほしい」

本年、日本で一年間の特別を語った後、去年九月に来日。今年三月月中旬まで、同センターで学ん

県蚕業センターに中国から研修にきた

高 峰林さん



の普及活動を通して着実に進んでいくと信じています。

第1回子供フェスティバル

3月13日(土)市中央公民館で「第1回子供フェスティバル」が開かれます。このフェスティバルは、子供たちが互いにふれあい、楽しんでからおと開催するものです。4つの催しも事前申込制となっておりますので、電話で市中央公民館(☎32・3231)に申し込んでください。なお、それぞれ定員になり次第締め切ります。

科目名	内 容	開催時間	講師等	定員	持ち物	参加対象
竹馬づくり教室	竹馬づくりと遊び方	9:30-11:30	公民館職員	30人	ベンチ1丁	小学校4年生・中学生程度
手品教室	ロープとトランプを使った初心者手品	13:30-15:30	海老名マジッククラブ会員	25人	トランプ1組	小学校4年生・中学生程度
映画会	トムソーヤの冒険 かさじぞう ふしぎな国のアリス他	13:30-15:30	公民館職員	200人	なし	小学校低学年
お話し会	お話しとパネルシアター	10:00	お話し会主催	100人	なし	小学校低学年
		11:00				
		11:30				



ドリブルシュートが入った

小学生108人が参加
ミニバスケットボール教室

小学生108人が参加 ミニバスケットボール教室

市内の小学生を対象にした「ミニバスケットボール教室」が二月六日、十三日、二十日の三日間、運動公園総合体育館で行われ、百八人が参加した。

ミニバスケットボールは、リングの高さやボールの重さ、試合時間などの違いがあるが、普通のバスケットボールと同じ。少くとも上達するようにつと、参加した子供たちは、バスケットボール協会(内野優会長)の協力下、バスやドリブルなどの基本から、ミドルシューティングなどの指導を受けた。また、最終日には、同教室のまとめとして、練習試合が行われ、子供たちのハッスルプレーに体育館が熱気で満たされた。中学生になったら、バスケットボール部に入って活躍したい」と子供たちの声も。

フォトピックス



毎回来しみにしている常連も...

陶芸品など3500点 地域作業所の展示即売会

「作品を通して障害者に理解と協力を」今年で八回目を迎える「障害者地域作業所 陶芸品など3500点 地域作業所の展示即売会」が、山岸安志会長(23作業所)の展示即売会が、二月五日から三日間、二子尾老名商店で開催された。連日たくさんの市民が訪れ、展示作品は、花瓶、湯のみ、コーヒーカーップの陶芸品や木工品など二百種類、三千五百点。価格は一点百円から五千円程度、毎年この催しを楽しみにしている常連客も多く、一人で何点も買う主婦の姿も見られ、売れ行きは上々で関係者を喜ばせていた。

また会場では、各作業所の活動を紹介します。パネル展、機械の美演なども行われました。

希望の派出所が！

海老名駅前派出所に完成
海老名駅前派出所を、中央・国分北・国分南・望地の全地区と上志原・上郷の一部の区域を管轄し、鉄骨二階建て延べ面積五十五平方メートル、座間警察署外勤課員十二人が交代で二十四時間体制で勤務にあたる。駅前には、朝夕、歩行者や車が多く、署員らは「道案内でもい



派出所で道を尋ねる子供たち

市内の経営者を対象 Eイズ対策の講演会

職場におけるEイズ対策をテーマにした労働経営セミナーが、二月十六日、市役所で行われ、事業所経営者など百三十五人が参加した。同セミナーは、経営力や労働福祉の向上などを目的としたもので、講師に厚生省保健医療局の苗村光廣医師を迎え、Eイズの現状や対策などについての講演が行われた。

熱心に聞き入る参加者



がEイズに関する正しい知識の普及や啓発を行い、感染者を減らした今後の労働環境を考える必要があると強調。参加者は、Eイズ問題を身近なものとしてとらえ、真剣に聞き入っていた。

海老名むかしむかし

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

2月19日～3月4日 第12話 板屋の松
3月5日～3月18日 第13話 電灯の松



第297話

洪水余話 その3 神仏と大水

人間は、自然の脅威に対し人智の限りを尽くしても、なおかつ人力の及ばないことがある。最後は神の加護や仏の功徳にすがって心の安らぎを求めてきた。洪水に対しては例外ではなく、市内にもその信仰の対象である神仏が所所に祭られている。

上郷の馬場の堤防際に、路傍の神様といわれている石仏がずらりと並んでいる。その中に「水神八竜王」と刻んだ高さ一・二六メートルの柱形。裏面に「嘉永五(一八五二年)壬子年二月吉日、上郷村」とある。



河原口にある水神様の祠(左)と八竜王の碑(右)

八竜王とは八体の龍王の総称で、元来長身無足の蛇の神格化したものとされ、雲を呼び雨を降らす神通力の持ち主といわれている。つまり八竜王とは水を呼び、水を鎮める支配神であるので、上郷村が大水の猛威から村を守ってほしいとの願いをこめ、この碑を建立したものである。

この西側にあつたという。そのため度々の洪水に見舞われ破損も多かったが、白石の側面に明治三十四年九月再建とある。その前に「川除地蔵尊」と彫ってある。子育てごとか「上げ抜き」など、地蔵にはいろいろの名がつけられていたが、川除とは珍しい。他に類がないかもしれない。

河原口には、「水神様」と呼ばれている石祠が河野公園の南部の護岸上にある。もとは厚木の渡しへの道が堤防を切り通したすべ北側にあつたが、昭和三十五年に現在地に移転したという。

下今泉の上河原の弁財天社の御神体も、座間方面から流れてきたと伝えられている。この社は別名「市杵島神社」ともいわれている。規模はがらよと整備されているが、これなどは、大水にほんろうされた受難の神様と呼べるのである。(池田 武治)

い歯をその下に埋め、悲壮な決意で願掛けをしたのだという。

本郷下河内の清田基家の水天宮は、大水で同家に流れ着かれた神である。邸内東流木立の茂る中に二つの祠があるが、南側のものがその水天宮である。祠の中に高さ四十五センチの石祠がある。その右側に「安政三(一八五六年)丙辰五月五日、右側面に「願主清田茂左衛門」と刻んである。水天宮の主神は天御中主神で「水の神」とされている。具体的には水徳の神、安産の神、水難除の神、火災除の神、中野の盛福寺のやや南にある堤防の内側三百平方メートルの所を「大六天」という。この地名が生まれたのは、この大六天が祭られていた所なのである。ここは、地元の故郷西海峰治氏ほか二名の所有地であった。ある年の大水で、この大六天が門沢橋まで流れていった。それを拾ったその地の人が西海氏方に届けられたので、氏の人々が再々出たので、「これは大六天の祟りではないか」と当初の場所へ戻した。

時は流れて昭和四十六、七、年ごろ、この地は東有地となった。現況はシタケやツルクサで荒れ放題になっていて、肝心の大六天の有無は判然としない。

これも水神ではないが、漂流先の村と現地との両方でその神を祭ってしまった、という特殊な例がある。杜家の西村にある「子之神権現」がそれで、茅ヶ崎の萩園へ流されたのを一度は戻されたが、その後の大水でまた同地へ流れ着かれた。萩園では、「私の村が余程お気に召されたのであろう」と、自分の所へ祭ってしまった。それ故、現在の杜家のお宮は仮の宮だといわれている。事実を確かめてはいないが、これなどは、大水にほんろうされた受難の神様と呼べるのである。

現在の御神体は蛇身でもとは養蚕の神として信仰を集めておられた。毎年、座間市新田の神官により祭事を執行しているのも、何かかわりがあるのかもしれない。